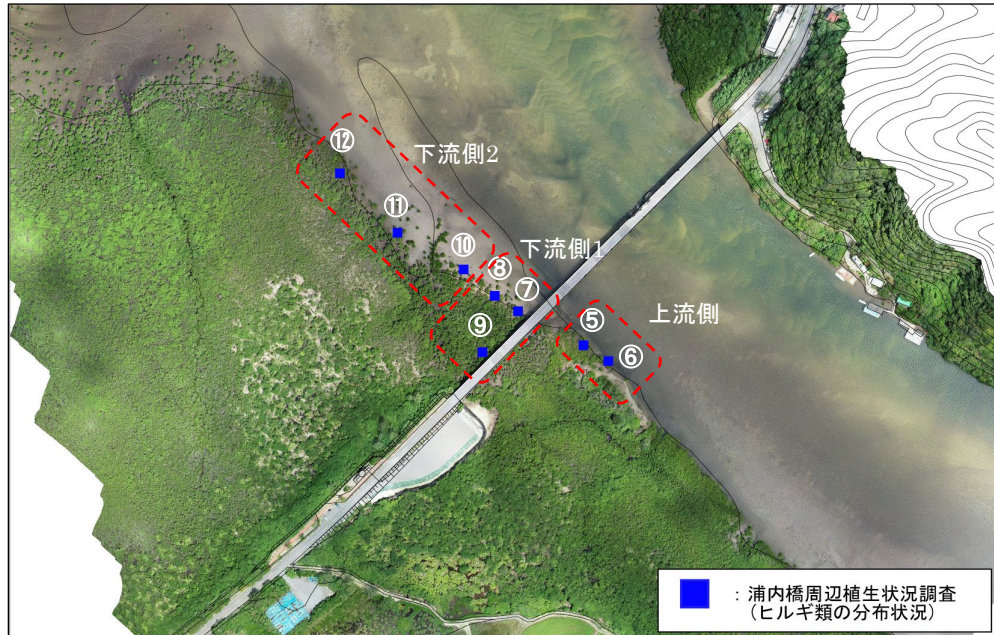


環境モニタリング調査結果【陸上植物】

(3) 浦内橋周辺植生状況調査

① ヒルギ類等の分布状況調査

- 浦内橋周辺に設定した8箇所(QR5～QR12)において、ヒルギ類等の毎木調査を実施した。
- 調査地点設定にあたっては、工事による影響が考えられる下流側の6箇所(QR7～QR12)を設定したほか、対照地点として上流側に2箇所(QR5～QR6)を設定している。
- なお、QR10～QR12の3箇所は事業実施箇所から離れた箇所の変化を把握するため、令和4年度春季に追加した。



QR5



QR6



QR7



QR8



QR9



QR10



QR11



QR12

環境モニタリング調査結果【陸上植物】

(3) 浦内橋周辺植生状況調査

① ヒルギ類等の分布状況調査(個体数)

- 令和6年春季において確認したヒルギ類等はメヒルギ、オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシの4種800個体で、その内訳は、ヤエヤマヒルギが744個体と最も多く、オヒルギ50個体、メヒルギ5個体、ヒルギダマシ1個体であった。
- 上流側、下流側で個体数の増減の傾向に顕著な差異は確認されず、各地点ともに横ばいもしくは減少傾向に転じており、個体数の安定化が進行していると示唆された。



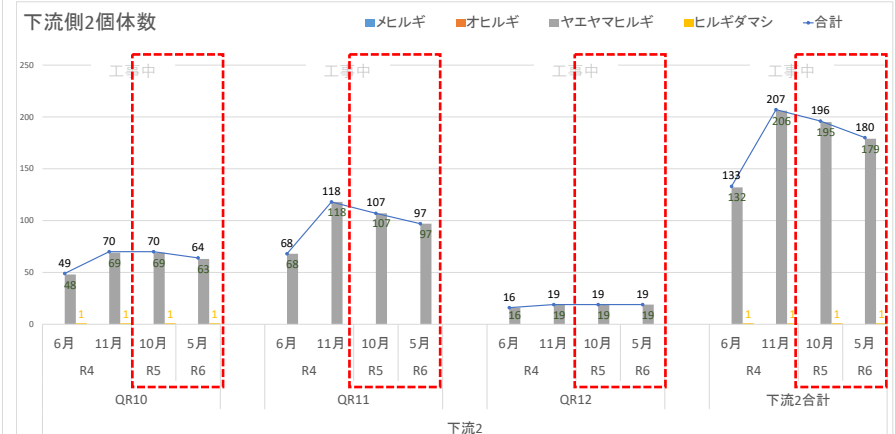
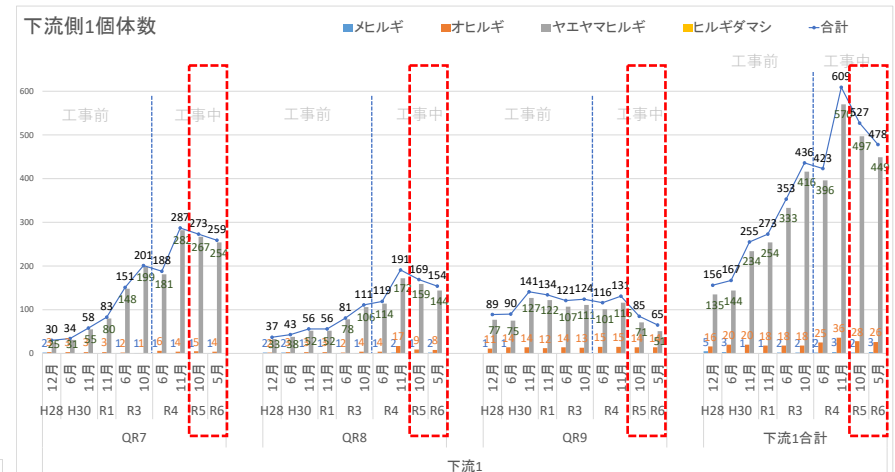
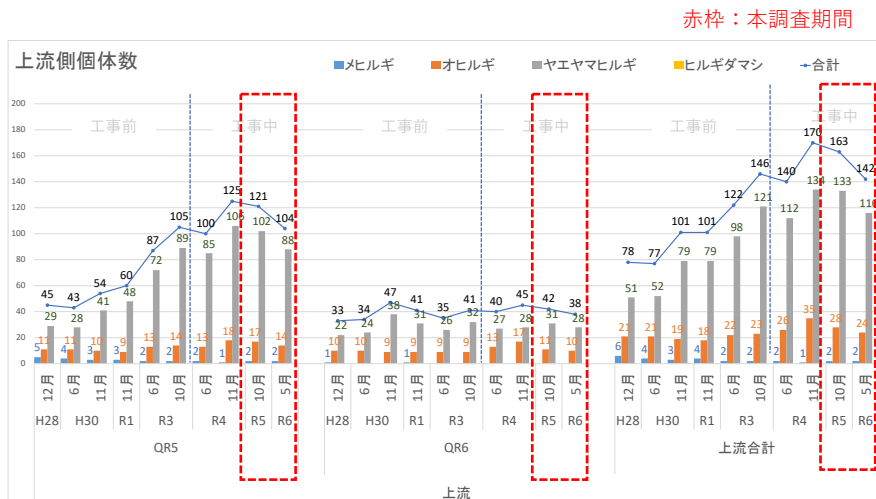
メヒルギ



オヒルギ



ヤエヤマヒルギ

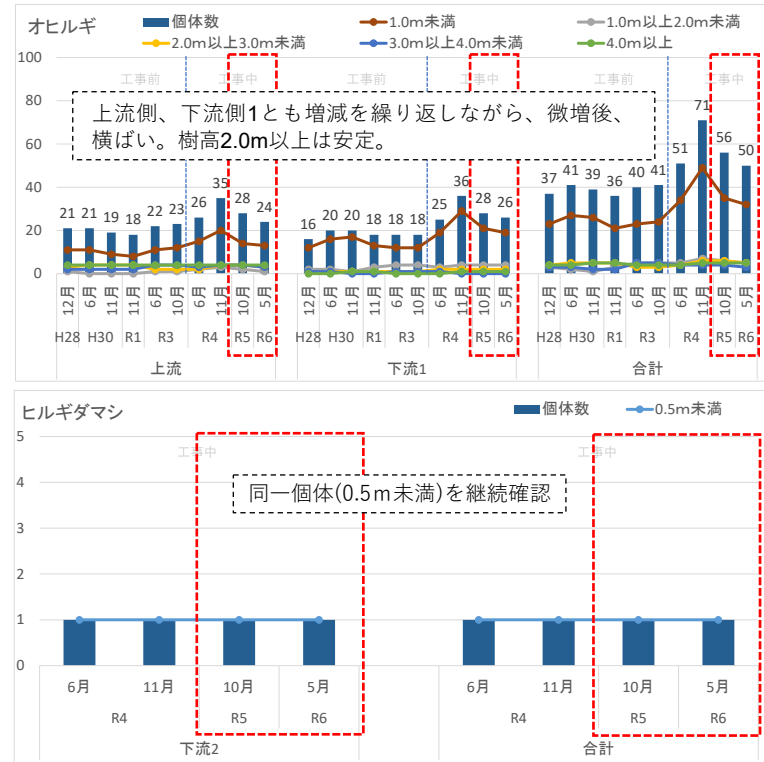
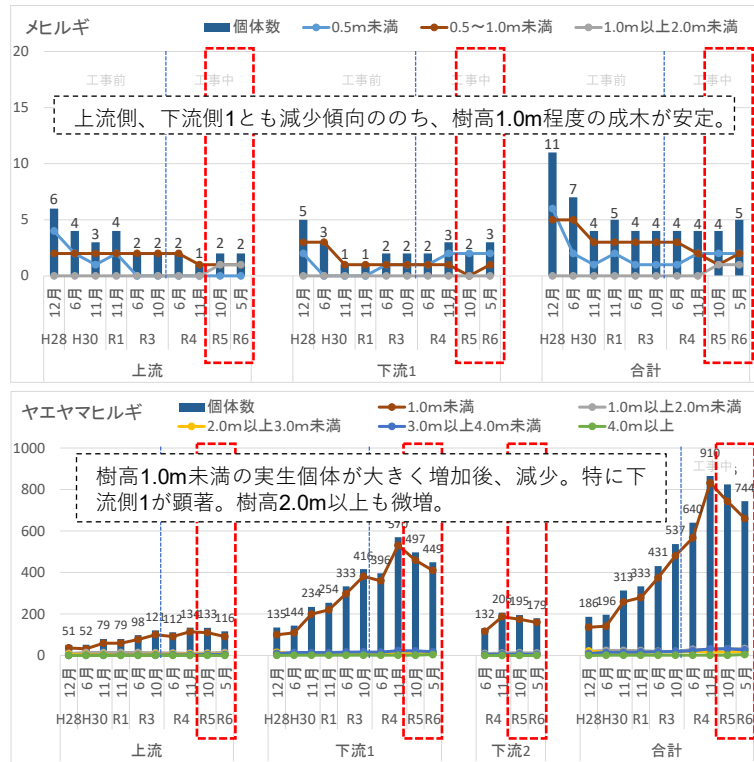


環境モニタリング調査結果【陸上植物】

(3) 浦内橋周辺植生状況調査

① ヒルギ類等の分布状況調査(樹種別)

- 主な3種(メヒルギ・オヒルギ・ヤエヤマヒルギ)の樹種別の変動では、実生個体の増減が大きく寄与しており、メヒルギは減少傾向の後、安定して推移、オヒルギは増減を繰り返しながら僅かに増加、ヤエヤマヒルギは季節的な増減があるものの大きく増加しており、樹種によって増減の傾向に僅かな違いがみられた。その要因として、樹種による僅かな生育環境の違いや種子供給量の違いが考えられた。
- 実生個体以外の個体数では、3種とも微増傾向にあることから、活着個体については安定した生育と成長が維持されていると示唆された。

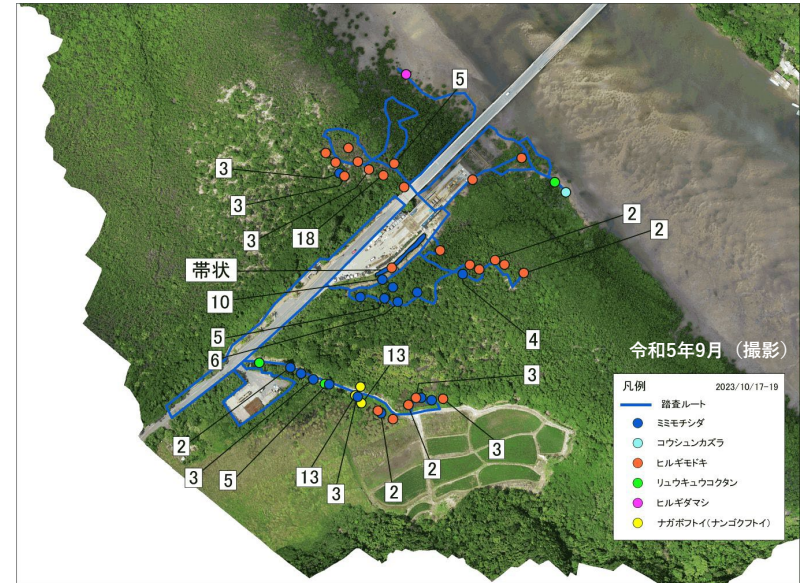


環境モニタリング調査結果【陸上植物】

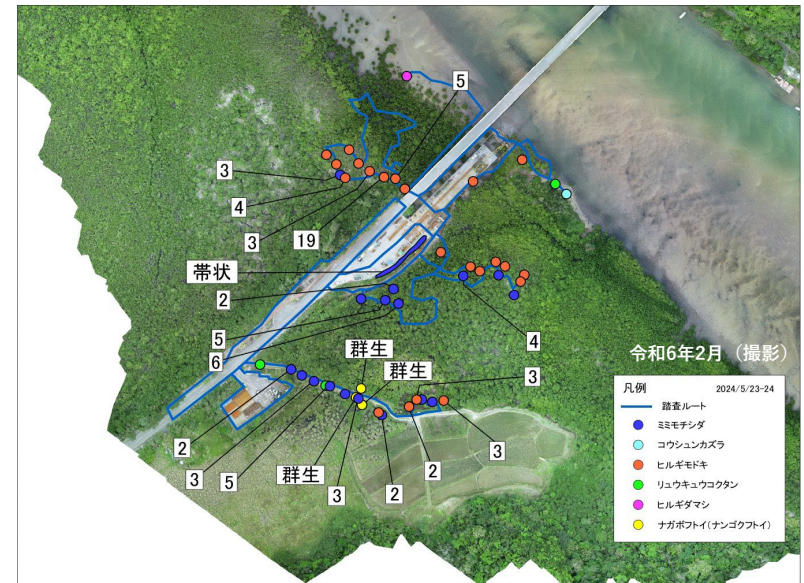
(3) 浦内橋周辺植生状況調査

②希少植物の生育状況の把握

- 確認した希少な種は、ミミモチシダ、コウシュンカズラ、ヒルギモドキ、リュウキュウコクタン、ヒルギダマシ、ナガボフトイの6種で、工事前と同様な生育状況が確認された。



希少植物の生育状況(令和5年度秋季)



希少植物の生育状況(令和6年度春季)